

第1回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

○開催日時 平成27年6月3日(水) 午後1時半～午後2時40分

○開催場所 研修室

○出席者 塩田町長、後藤教育長、
熊坂委員、岡田委員、黒木委員、岡本委員

○同席者 【町職員】

松本副町長、松尾副町長、空林総務部長、坂東教育部長、松田社会教育課長、
後藤子育て共育課長、高橋教育指導室長

【教育関係者】

岩澤小豆島高等学校校長、小玉小豆島中学校校長、片山池田小学校校長、
羽座星城小学校校長、三浦安田小学校校長、川井苗羽小学校校長、
安藤園長(星城・安田・苗羽幼稚園)、川口園長(旭・福田幼稚園、内海保

育

所橋・福田分園)、中多小豆島こどもセンター園長、増田小豆島こどもセン
ター所長、大岡内海保育所所長、慈氏草壁保育園園長

○傍聴者 16名

○事務局 3名

【内 容】

[塩田町長] 挨拶

小豆島町にとってこの会は、非常に画期的な会である。これまで、教育問題については教育委員会の管轄であった。この法律ができ、町長と教育委員とが直接教育問題について話し合うことができることはとても良いことである。

[事務局] 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 音読

[塩田町長]

- ・法律第一条の三第4項について

教育委員会は今まで通り、教育委員会の役割を果たす。これを地方公共団体の長が侵してはならない。

- ・会議規則第9条について

法律に沿っているが、1点違うところは町長部局の「総合教育会議の庶務は、総務部総務課において処理する。」というところである。

- ・法律の意義について

- ①信頼性

- 責任の所在が不明な場合や、不信・不透明なところがなくなる。

- ②公開性

- 今まで大事なことは、内部で決めていて、議論等外部から見えないところで協議をしていたが、法律によって公開するよう定められているため、目の見えるところでの協議ができる。

- ③参加性

- いろんな関係者・学識経験者に参加してもらい、意見を聴くことができる。長や教育委員等の意見だけではなく、有識者からの意見を取り入れること。

- ④継続性

- 法律で、この会が決められており、この総合教育会議はずっと続いていく。市町が総合教育会議を活用していくか否かで、長期間で見れば教育に相当の差がつく。

- ・総合教育会議の進め方

- 小豆島町の大綱を定めるために年内いっぱい会議で協議したい。法律にあるように、小豆島町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な大綱を定めていきたい。

- ・教育への思い

- ①子どもたちに、良い先生に教育を受けたと思わせる先生をつくる。

- ②子どもたちにはいろいろな可能性がある。先生が目標を下げないでほしい。各々がベストな大学に進学できる教育を目指してほしい。

- ③障害をもつ子どもが増えている。その子どもたちが可能性・個性を伸ばせる教育を実現したい。

- ④現在は都会の子どもの方がたくましく育つ環境にある。

- 小豆島で育つ子どもたちがたくましく育つ環境を作っていきたい。いろいろな機会を与えて、様々なものに触れ可能性を広げてあげることが大切。それを行政、学校が意識していくべきである。

[後藤教育長]

- ・運動能力の低下について

- 歩いて登校する児童・園児の減少。保護者の車での送迎。小学校において、スポーツ少年団に入っている子どもとそうでない子の運動能力の差が著しい。今年には小学校での体力づくりに力を入れていきたいと思っている。7月には先生方を集めて指導研修会、8月に各学校独自の課題を解決する指導、研修を行う予定である。

- ・学力について
安定した学力をつけさせる環境づくりを幼稚園、学校と一緒に教育委員会として具体的に方策を考え行っていきたい。
- ・道徳について
ふるさとを愛する子どもを育てる。地域学習を幼稚園、小学校、中学校と徹底的にやっていきたい。

[熊坂委員]

いい子ども、たくましく育っていくために、様々な経験をもつ先生を集めたい学校づくりをしてほしい。先生方に、しっかり指導のできる、学級を健全に運営できる先生になってほしい。子どもたちの進路、将来を見据えて、子どもたちの特徴をしっかり見つめてひとりひとり育ててもらいたい。そのためには、教育の肝心なところはいい先生を育て、サポートしていくことだと思う。

[岡田委員]

- ・基礎学力について
授業参観等に参加しているが、わかりやすく授業を進めている先生もいれば、中にはもう少し工夫した方がいいと思う先生もいる。やはり、先生方の人材育成が大切である。しかし、幼・小・中で連携をしており、それぞれの段階で子どもたちの成長がみられる。これは継続してほしい。
- ・体力面について
体力をつける機会を作してほしい。小豆島中学校で池田方面からのスクールバスに乗ることによって、歩く機会が少なくなっている。イマージュセンターから乗車する生徒についてもそこまで車で親が送迎している様子がよくみられる。
- ・文化、伝統について
内海、池田地区とも素晴らしい文化・伝統がある。子どもたちが、都会へ出て行っても、また帰りたと思えるような活動を取り入れていきたい。池中太鼓はとても良いものであった。良いものは続けていくべきである。
- ・不登校の問題について
子どもと保護者がお互いに相談し合って、解決していけるように寄り添っていくことが大切である。
- ・地域の見守り活動について
地区の老人会と一緒に活動している。地域の宝物として、子どもたちが育ち、見守っていくことが大切である。

[黒木委員]

子どもたちに、小豆島に生まれ育ったことに、誇りと自信を持ってたくましく育ってほしい。将来大人になったときに、世界に通用する人間性を持った人として、

いろんな場面で活躍してほしい。

[岡本委員]

父兄として先生方に期待する立場であるが、先生といえどもひとりの人間である。勤務時間をみても、非常に遅くまで学校に残っていることが垣間見られる。家に帰れば、親である先生もいるので、もう少し先生方のゆとりを持った日々の生活を担保してあげる施策が必要なのではないか。先生方も人間ですので、自分の引き出しが多ければ多いほど、子どもたち、父兄に対してもその引き出しを使って対応できるのではないか。自分に余裕がなければ、窮屈な対応になってしまうのではないか。また、いろいろな父兄がいるが、その親たちがチームとなって先生方を支える施策が必要なのではないか。それによって、子どもたちがすくすくのびのびと成長していくと思う。そして、小豆島は地域力が非常に高いので、この地域力を生かして小豆島らしさを出していけたらと思う。

[塩田町長]

次回以降は、月に1回程度、開催しようと思っている。大綱を定めなければなら

ないので、大綱に必要な議論を少しずつ行っていこうと思っている。法律にあるように、関係者、学識経験者から意見を聴くことができるので、随時いろいろな人に参加してもらおう予定である。また、個別問題について、随時話し合うこともある。その個別の案として、「小豆島物語、壺井栄 黒島伝治 壺井繁治 再発見プロジェクト」を提案したい。

(「小豆島物語」の内容)

[岩澤小豆島高等学校校長]

土庄高校と2年後に統合を控えている。島の生徒は島の高校で受け入れるという、全日制から定時制まであり、体制づくりはできているが、全員が入学してきてはいない状態である。ぜひ、小豆島高校に入学してほしい。高校は町立ではないが、幼・小・中・高と連携して、学習面、スポーツに力を入れ、地域に根差した教育に取り組みたい。

[小玉小豆島中学校校長]

内海中学校、池田中学校が統合して2年目を迎える。

歩く機会が少なくなっているなど、体力不足の話が出ていたが、その分部活等に力を入れて力を入れていこうと思っている。「繋がる」という言葉を合言葉にしている。この会議もそうだが、皆が力を合わせて子どもたちのために頑張っていこうスタンスが大切だと思う。

[浜口議員]

中学校あたりの父兄から、今の高校へ進学させたくないという声が聞こえてくる。

そういう声が聞こえるが、ぜひ中学校と連携して、島の外ではなく、島の高校へ行くようにしてほしい。また、島外で活躍している島出身の方の話聞く機会を作してほしい。

[塩田町長]

ぜひ、島出身でいろんな分野で成功している方の話を聞いてほしい。年齢別にそういった方の話を聞く機会を設けるべき。

[後藤教育長]

そういった話を聞く機会、講演会等を設けていきたい。

[塩田町長]

学校、教育委員会は卒業生の活躍を知らない。卒業してからのフォローをしてほしい。活躍している人は大勢いる。そういった方を、招くことにより、その人自身が帰ってくるきっかけにもなる。